

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 楽天生命保険株式会社（証券コード：-）

### 【新規】

長期発行体格付	A-
格付の見通し	ネガティブ
保険金支払能力格付	A-
格付の見通し	ネガティブ

### ■格付事由

- 楽天グループの生命保険会社。楽天グループが議決権を100%保有し、取締役を複数名派遣しているなど、経営の意思決定や経営管理における一体性が高く、グループによる支配・関与度は強い。生命保険の提供は楽天経済圏のサービスラインナップの拡充、利便性の向上を通じたグループの顧客基盤の維持に資すると考えられる。事業運営上の結びつきは極めて強く、当社はグループにとって戦略的・機能的に重要な位置付けにある。財務支援の実績なども踏まえると、グループから適時適切な支援が行われる蓋然性は高いとJCRはみており、発行体格付は、楽天グループのグループ信用力「A-」相当と同等とした。格付の見通しは、楽天グループ株式会社に合わせて「ネガティブ」としている。
- 販売チャネルの中心は対面型の代理店で、インターネットチャネルを含め第三分野商品を軸に商品展開している。保険料に応じた楽天ポイントの獲得、保険料のポイント支払いなどが可能であり、楽天経済圏の顧客にアクセスしやすい環境にある。楽天グループのサービスと連携した商品の拡充なども進めており、グループ内における顧客誘導の効果も発揮されている。もっとも、楽天経済圏に親和性の高い事業を多く持つ損害保険との比較では即効性のあるグループシナジーの創出が難しく、また、第三分野商品は競合が厳しく競争優位性の確保は容易ではない。楽天ブランドによる訴求力とポイント制度の活用などを通じて他社との差別化を進められるか注目している。
- 基礎利益は、人件費やシステム投資の負担のほか、収益に対する広告宣伝費などの新契約費が大きく、赤字が続いている。黒字化には保有契約規模の拡大が重要である。各代理店との連携強化やポイント制度の活用などを含むグループシナジーによって契約業績を一層拡大できるかフォローしていく。堅調な契約業績を背景に保有契約年換算保険料は着実に増加している。保有契約の商品ポートフォリオは第三分野商品の割合が大きいこともあり、経済価値ベースでみた収益性は相応に高いとみられる。
- リスク対比でみた資本充実度は問題のない水準にある。各種準備金を含む中核的な自己資本は増加基調で推移している。医療保険など第三分野商品の構成比が高いことなどから負債デュレーションが比較的短く、資産とのデュレーションギャップに起因する金利リスクは小さい。経済価値ベースの健全性を示す指標は、ストレスがかかる状況においても健全性を維持することができる水準にあり、感応度も抑制されている。楽天保険グループ一体でのERM態勢の整備を通じて、リスク管理を基軸とした収益や資本の一体的な管理態勢の構築を進めており、経済価値ベースの考え方が徐々に浸透している。

（担当）阿知波 聖人・松澤 弘太

### ■格付対象

発行体：楽天生命保険株式会社

### 【新規】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	ネガティブ
保険金支払能力	A-	ネガティブ

## 格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2024年3月26日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩  
主任格付アナリスト：阿知波 聖人
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2024年2月1日)、「生命保険」(2024年2月8日)、「企業グループの傘下会社の格付方法」(2022年9月1日)として掲載している。
5. 格付関係者：  
(発行体・債務者等) 楽天生命保険株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
  - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
  - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：  
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

## ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

## ■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

## ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル